

令和5年度

「運営に関する計画」

大阪市立築港小学校

令和5年2月

大阪市立築港小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和4年度、新たに不登校となる児童は1名であった。朝、教職員が家まで迎えに行くなどし、登校できる児童もいるが、生活リズムの乱れなどにより、登校できない日がある児童もいる。

令和4年度の小学校学力経年調査「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的な回答は77%であった。前年度よりも3%増加したが、まだ2割程の児童が肯定的でない。

令和4年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率の対全国比は、国語0.85、算数0.91であった。令和4年度の小学校学力経年調査では、1学年が市の平均を超えたが、残りの3学年が平均を3～6%下回った。

一人一台端末が整備され、各学年、スマートスクール「心の天気」の入力、相談機能やデジタルドリル「navima」の活用を進めてきた。各学級での実施頻度に差があるため、学校全体として取り組んでいく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

児童一人一人に寄り添った不登校要因への対応を行い、今後4年以内に、新たな不登校児童の数を0にし、現在不登校の児童の出席日数を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

誰一人取り残さない学力の向上に向け、個に応じたきめ細かく継続した指導・支援を充実させ、今後4年以内に、全国学力・学習状況調査での平均正答率の対全国比を1.00以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において学習者用端末を毎日使用し、児童の心の状態や日々の生活の状況を可視化し、子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応を行う。また、学校図書館などの学校施設の充実・整備を進めたり、地域、保護者と連携を深めたりしながら、地域全体で子どもたちを見守り、子どもたちの健全育成を図る。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度(1.6%)より減少させる。

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

○学校アンケート「学校に行くのは楽しい」と肯定的な回答をする児童を85%以上にする。そのためには、「教室は間違えてもよいところ」だと伝え、様々な体験や経験を通して間違いや失敗を認め、教職員が次につながる声掛けを行うことで安心して学校生活を送ることができるようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を54%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一分母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を63%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。

学校園の年度目標

- 学校アンケートにおける「歯磨きの大切さがわかり、朝・昼・寝る前にしっかり磨いている。」の肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- 授業日において学習者用端末を毎日使用する。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

学校園の年度目標

- 子どもたちが生き生きと読書を楽しめるよう、昼休み毎日1回学校図書館を開放する。
- 学校行事等に地域の方や保護者を年5回以上招き、地域で子どもたちを見守る意識を高め、子どもたちの健全な育成を図る。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の年度目標の達成状況については、次の通りである。

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、80%と目標を達成することはできなかった。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率は4.1%と前年度（1.6%）より減少する事ができなかった。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の2名は始業からの登校や毎日の登校は難しいものの、本校全教職員による働きかけにより、午前中の途中からや午後からの登校はできるようになってきており、昨年度より確実に改善はできている。また、もう1名の不登校児童は、登校はできていないものの、本校教職員と別室登校等サポーターが1学期から毎日欠かさずに家庭訪問を行った。

学校の年度目標

○学校アンケート「学校に行くのは楽しい」と肯定的な回答をする児童の割合は、80％と目標を達成することはできなかった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、55％（3年 55.6%、4年 76.5%、5年 53.3%、6年 34.8%）と学校全体で目標を達成することができた。

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一分母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させるについては、
国語：4年 6ポイント向上、5年 10ポイント向上、6年 6ポイント減少。
算数：4年 2ポイント向上、5年 2ポイント向上、6年 6ポイント減少という結果だった。
6年は減少しているが、大阪市平均正答率も全国正答率も超えている。

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を63％以上にすることは、75.3％（3年 83.4%、4年 88.3%、5年 60%、6年 69.6%）と学校全体で目標を達成することができた。

○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、74.8％（3年 66.7%、4年 76.4%、5年 86.7%、6年 69.5%）と目標の80％以上を達成することができなかった。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、74.2％（3年 83.3%、4年 70.6%、5年 73.3%、6年 69.6%）と学校全体で目標の72％以上を達成することができた。

学校の年度目標

○学校アンケートにおける「歯磨きの大切さがわかり、朝・昼・寝る前にしっかり磨いている。」の肯定的な回答をする児童の割合は、92％と目標を達成することができた。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

○授業日において学習者用端末を毎日使用するにおいて、学校アンケート「日々の学校活動の中でパソコンを活用している」に対して、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合は85％とほとんどの児童が使用している。

○ゆとりの日を週に1回設定・実施することができた。

学校の年度目標

○子どもたちが生き生きと読書を楽しめるよう、昼休み毎日1回学校図書館を開放することができた。

○学校行事等に地域の方や保護者を年5回以上招き、地域で子どもたちを見守る意識を高め、子どもたちの健全な育成を図ってきた。

(様式2)

大阪市立築港小学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・学校) ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(令和4年度88%) → 令和5年度80% ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 ○学校アンケート「学校に行くのは楽しい」と肯定的な回答をする児童を85%以上にする。(令和4年度83%) → 令和5年度80%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 児童理解のためのネットワークでの気になる児童の共通理解や、スクールライフノートの相談機能等の取り組み、また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを活用し家庭との更なる連携を図りながら、不登校の未然防止や改善に取り組む。 <hr/> 指標 令和5年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を、前年度(2人)より減少させる。 令和5年度新たに不登校になった児童数は3名。	B
取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「いじめ(いのち)について考える日」や「いじめアンケート」の実施により、いじめの未然防止、早期発見に努める。 <hr/> 指標 令和5年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(令和4年度88%) → 令和5年度80%	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「教室は間違えてもよいところ」なので、様々な体験や経験を通して間違いや失敗を認め、教職員が次につながる声掛けを行うことで児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。 <hr/> 指標 令和5年度の学校アンケートにおける「学校に行くのは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(令和4年度83%) → 令和5年度80%	B
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳教育・キャリア教育の充実や、異学年との取り組みを通じて、自己肯定感・自己有用感の向上に努める。 <hr/> 指標 令和5年度の学校アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。 (令和4年度77%) → 令和5年度83%	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容①</p> <p>児童理解のためのネットワークでの気になる児童の共通理解や、スクールライフノート の相談機能の取り組みを行った。また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセ ラー、別室登校等サポーターを活用し家庭と連携を図りながら取り組んだため、不登校の 未然防止や改善ができた。</p> <p>取組内容②</p> <p>・「いじめ（いのち）について考える日」、「いじめアンケート」を実施した。学期毎に行っ た「いじめアンケート」では、実施後、対象児童への聞き取りを行った。また、いじめ問 題について、いじめ対策委員会を通じて共通理解を図り、組織的に取り組むことができた。 各学級では、学校安全ルールや道徳の教材などを用いて、いじめに関する指導を進めるこ とができた。</p> <p>取組内容③</p> <p>・様々な体験や経験を通して間違いや失敗を認め、日々間違ふことの大切さを具体例も出 しながら声かけをしたり、「間違えてもいいよ」や「失敗してもいいから挑戦しよう」等） 間違えてしまった児童がいた場合に感謝の気持ちを伝えたりしてきた。</p> <p>・児童一人一人が発表しやすい環境づくりで、事前に間違いに気づくためにペア学習など 少人数での確認を行ったり、習熟度別の授業では、エラーレスの学習になるように発表原 稿を提示し、発表のフォローをしたりしてきた。また、児童による同意の返事や称賛など により、安心して発表できる雰囲気づくりをしてきた。その結果、安心して、積極的に挙 手し発表できる人数が増えてきた。</p> <p>取組内容④</p> <p>・主に道徳教育や地域の方々によるキャリア教育、異学年交流を実施してきた。</p> <p>・異学年交流を1学期に1回行った。3学期に1回行った。</p> <p>・たてわり班での集会や行事などの異学年交流、幸せ宝箱等の取り組みを行い、 児童の自己肯定感を高め、お互いを認め合えるようにしてきた。</p> <p>・道徳や全体指導を通して、他者の気持ちについて考えたり、自分の長所に気づいたりし てきた。</p>
次年度への改善点
<p>取組内容①</p> <p>・不登校児童、また学校に通いにくい児童が学校に登校していないときの教職員の動きを 決めておくようにする。</p> <p>・対応・体制をどうしていくか共通理解をし、全教職員で対応する。</p> <p>・児童理解のためのネットワーク会議等において、児童の様子について全教職員で共通理 解することを継続していく。</p> <p>取組内容②</p> <p>・いじめがいけないと最も肯定的に答える児童の割合は、10%目標を下まわってしまっ た。しかし、いじめがいけないと肯定的に答える児童の割合は、95%といけないこと だということは感じている。今後そのいけないことを最も肯定的にしていけるために、「い</p>

じめ（いのち）について考える日」、「いじめアンケート」等の取り組みを継続していく。また、いじめ問題については、共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。さらに、子どもの人権意識を高めたり、スマホなどを使ったいじめなど、今の子どもの環境に合ったいじめの知識を増やしたりする。

取組内容③

- ・学校が安心できる場所と感じられるよう失敗や成功に関係なく、頑張ったことを褒め、次につなげていく。また、習熟度別・少人数授業に代わるアプローチも考えていく。

取組内容④

- ・今後も活躍できる場、できたと思える場をつくっていく。たてわり班での集会・行事による異学年交流、幸せ宝箱等の取り組みを通して、お互いを認め合えるようにしていく。

大阪市立築港小学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 54% 以上にする。 (令和 4 年度 53%) → 令和 5 年度 55% ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 国語：4 年 6 ポイント向上、5 年 10 ポイント向上、6 年 6 ポイント減少。 算数：4 年 2 ポイント向上、5 年 2 ポイント向上、6 年 6 ポイント減少という結果だった。6 年は減少しているが、大阪市平均正答率も全国正答率も超えている。 ・ 小学学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 63% 以上にする。 (令和 4 年度 63%) → 令和 5 年度 75% ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。 (令和 4 年度 79%) → 令和 5 年度 75% ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 72% 以上にする。 (令和 4 年度 71%) → 令和 5 年度 74% <p>学校の年度目標</p> <p>○学校アンケートにおける「歯磨きの大切さがわかり、朝・昼・寝る前にしっかり磨いている。」の肯定的な回答をする児童の割合を 90% 以上にする。 (令和 4 年度 91%) → 令和 5 年度 92%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>始業前の反復学習の取り組み等を通して、基礎学力の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より１ポイント以上減少させる。 （令和４年度 ４年３ポイント減少、５年４ポイント増加）</p> <p>令和５年度 ４年１３ポイント減少 ５年２３ポイント減少 ６年０ポイント減少</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向５ 健やかな体の育成】</p> <p>なわとびタイムやかけ足タイムなどを設け、体育施設・体育用具を活用して進んで体力づくりに取り組み、運動することが好きな児童が増えるようにする。また、芝生を定期的に整備し、休み時間などで児童が安全に遊ぶことができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>新体力テストの結果を記録するカードや水泳カード、なわとびカードを個人で６年間使用し、令和５年度の学校アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８８％以上にする。 （令和４年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査９０％）→令和５年８８％</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向５ 健やかな体の育成】</p> <p>自ら健康に関心が持てるように指導し、健康な生活リズムが継続的に身につくようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和５年度の学校アンケートにおける「歯磨きの大切さがわかり、朝・昼・寝る前にしっかり磨いている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。（令和４年度９１％）→令和５年９２％</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の学習時間や昼の学習の時間に５分間ドリル、ナビマ、プリントやコグトレなどを計画的にくり返し行い、基礎学力の定着を図ってきた。また、スクールアドバイザーによる研修や昨年度までの学力調査・経年調査の結果を分析し、正答率の低かった領域の復習を重点的に行った。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> １２月になわとびタイム・１月にかけ足タイムを設定し、進んで体力づくりに取り組むことができるように計画、実施した。子どもたちが楽しんで運動に取り組む姿や、寒い日にも元気に走る姿が見られた。また、運動委員会を中心に全校遊びを計画、実施し楽しく運動できるような取り組みを行い子どもたちは楽しんで参加することができた。 低学年による冬芝の種まきを実施したり、定期的な整備をしたりすることができ、児童が楽しく安全に遊ぶことができた。 <p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> 発育測定時などを通して、歯磨きや睡眠の重要性についての指導を行い、健康的な生活 	

リズムが身につくよう指導を継続した。

- ・歯の健康教室、歯みがき強調週間におけるがんばりカードの活用、保健環境委員会の児童が作成した月ごとの歯みがきカレンダーなどで、歯みがきへの積極的な取組を行った。
- ・年3回の歯磨き強調週間は、マンネリ化の防止と良い習慣化に効果があり、給食後に歯磨きをする児童の意識の向上にもつながった。
- ・給食を時間内に終われない児童に対しての歯磨きの時間の保障、意識の薄れ防止の為に、今後の対策を考えていく必要がある。
- ・歯みがきの大切さは個々に意識はしているが、長期休業中の家庭での歯みがきの様子を見ると、食後の歯磨きができていない現状もあり、学校生活の場面だけにならないよう、家庭との連携を図る必要がある。

次年度への改善点

取組内容①

- ・今後も経年調査等の結果をもとに、苦手な分野を分析し、反復学習に取り組んでいく。また、ビジョントレーニングや体幹トレーニングを取り入れ、学習活動の基礎となる力を育てていく。

取組内容②

- ・バスケットボールを行う児童が多いので、バスケットコートができるように考える。
- ・環境整備や運動に必要な道具を計画的にそろえる。

取組内容③

- ・歯磨きと並行して、早寝早起きなど生活のリズムに目を向けた取組を合わせて実施してはどうか。
- ・歯磨きをすることは定着しているが、歯磨きカレンダーに色を塗る時間がなく歯磨きをしているのに色塗りしない児童がいた。色を塗るのではなく、丸をつける・チェックをするなど簡単に印をつけるなどの工夫が必要。
- ・歯磨き教室やがんばりカードを用いた取組は、意識の向上を図る機会なので、今後も継続していく。

(様式2)

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <p>・授業日において学習者用端末を毎日使用する。 毎日使用することはできたが、全児童が毎日使用することはできなかった。</p> <p>・ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 毎週1回ゆとりの日を設定・実施することができた。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○子どもたちが生き生きと読書を楽しめるよう、昼休み毎日1回学校図書館を開放する。 毎日昼休みに学校図書館を開放することができた。</p> <p>○学校行事等に地域の方や保護者を年5回以上招き、地域で子どもたちを見守る意識を高め、子どもたちの健全な育成を図る。 地域の方や保護者の方々を5回以上招き、一緒に活動することができた。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>スマートスクール「心の天気」の入力や、授業にデジタル教材を活用することで、子どもの理解を深めるとともに、学習者用端末の習慣的な活用に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和5年度の学校アンケートにおける「日々の学校活動の中でパソコンを活用している」に対して、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合80%以上にする。 (令和4年度70%) → 令和5年度85%</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用デジタル教材や一人一台端末を活用することで、楽しく算数の学習に取り組む児童が増えるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和5年度の学校アンケートにおける「算数の学習がわかる」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(令和4年度83%) → 令和5年度85%</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議等の精選、ゆとりの日の設定により、時間外勤務の時間を減少させる。</p> <hr/> <p>指標</p>	B

ゆとりの日を週1回以上設定する。また、学校閉庁日を夏季・冬季休業期間中において、それぞれ2日以上設定する。 令和5年度、学校閉庁日は夏季4回、冬季3回、ゆとりの日を週1回	
取組内容④【基本的な方向8 生涯学習の支援】 子どもたちが生き生きと読書を楽しめるよう、昼休み毎日1回学校図書館を開放する。 指標 令和5年度の学校アンケートにおける「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。(令和4年度66%)→ 令和5年度79%	B
取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 学校行事等に地域の方や保護者を年5回以上招き、地域で子どもたちを見守る意識を高め、子どもたちの健全な育成を図る。 指標 令和5年度の学校アンケートにおいて、「地域の人と一緒に行う活動が好きです」に対して、肯定に回答する児童の割合を90%以上にする。 (令和4年度89%)→ 令和5年度87%	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・日々の授業でデジタル教材 NHK for school の活用などパソコンをほぼ毎日使用することができている。しかし、心の天気は入力する習慣の徹底は必要である。また、1学期中にICT支援員の方等にGWS（グーグルワークスペース）やデジタルドリル（ナビマ）の研修を教職員に行い指導方法を示すことにより授業でパソコンを活用する機会が増えた。パソコンを使用するルールは掲示物により学校全体で統一できてきてはいるが、使っているアプリやサイトなどを具体的に考える必要がある。	
取組内容② ・算数科の授業でsky menu やGWS（グーグルワークスペース）など、ICTを取り入れ、パソコン上で数え棒や図形などを操作することで児童が楽しみながら学習に取り組めるように工夫することができた。間違えても何度も簡単にやりなおすことができるICTは児童にとって効果的であった。また、短時間学習や授業の前後の数分にも一人一台端末を活用し復習の時間にしている。しかし、デジタルドリル（ナビマ）は学年により使用率の偏りがみられた。	
取組内容③ ・ゆとりの日や閉庁日がきちんと設定されていた。また、ゆとりの日は、時間内に退勤している。 ・SSSと連携し、優先事項を決めて日々の業務や職員作業の削減に努めた。	
取組内容④ ・昼休み毎日1回学校図書館を開放した。 ・1年生から3年生は、月に1回図書委員会が、4年生から6年生は、学期に1回司書による読み聞かせを行った。11月の読書週間では、読書ビンゴを行い、楽しんで参加し読書を楽しむ機会を設けた。また、読書週間の際には、港図書館のお話会も実施した。	
取組内容⑤ 1年・・・入学式、学習園と植木鉢植え、築港キッズ、昔遊び、みかん狩り 2年・・・学習園と野菜の苗植え、町たんけん、芋掘り、かるた遊び、みかん狩り	

3年・・・水上消防署見学、海遊館見学・アカデミー、みかん狩り
4年・・・そろばん教室、海遊館見学・アカデミー、ラジオ大阪・アルボースと「海と人の健康」、海遊館出前授業「チリメンモンスター」、みかん狩り、福祉教育（車椅子）
5年・・・たまねぎ収穫、着衣泳、伝統文化体験、サンタマリア号乗船
静月出前授業「キャリア教育」、福祉教育（手話）、NHK 防災サバイバル
6年・・・たまねぎ収穫、着衣泳、福祉教育（認知症）、キャリア教育、卒業式
全学年・・・参観、引き渡し訓練、懇談会、築港らんらんらん、運動会、秋の交通安全教室
など地域の方々と一緒に活動できた。また、実施後にはお礼の手紙などの交流も行ってきた。

次年度への改善点

取組内容①

・パソコンの使い方のルール「学習に関係のある使い方」で具体化と共通理解を行う。また、「心の天気」を児童から主体的に行うような工夫を考える。例として、朝や昼の放送時に放送委員会に「心の天気」入力についてふれてもらう等。

取組内容②

・学習ドリル（ナビマ）の活用率を向上させる。そのために、学習ドリル（ナビマ）を宿題などの家庭学習に使用させる。また、教職員の丸付けの時間や宿題チェックの時間の削減にも繋げていく。

取組内容③

- ・継続して仕事内容の精選をしていく。
- ・会議の精選、「ゆとりの日」の設定を継続していく。

取組内容④

- ・図書館開放、読み聞かせを継続していく。学級文庫を充実させていく。

取組内容⑤

- ・継続して取り組んでいく。